

仙台西多賀病院

地域医療連携室だより vol.68

新年のご挨拶

院長 武田 篤

明けましておめでとうございます。

全国の病院の7～8割が赤字と言われるほど、病院経営はかつてない程に厳しい事態を迎えております。2022年から続くインフレ率3%前後の政策誘導を背景とした物価高、人件費の上昇の一方で、医療費のみが過度に抑制され続けて来た結果、既に現行の保険診療制度の中で健全な経営を継続して行くことはほとんど不可能な状況に陥りつつあるのが実情に思われます。本年は診療報酬改定を控えていますが、国民生活のセーフティネットとも言える医療が、このまま崩壊することのない様にして行かなければなりません。今年は医療を取り巻く環境が少しでも改善に向かうことを切に願っております。

当院の近況をお伝えします。脊椎手術に関しては内視鏡手術が半分を超えて低侵襲化がさらに進んでいます。機能的脳外科手術に関してもパーキンソン病や振戦に対する脳深部刺激療法の他、難治性疼痛に対する脊髄刺激術も増えてきました。HALを用いたリハビリテーションについても件数が増加しており、全国有数の実施件数を誇っています。パーキンソン病センターは年間1千例を超える診療を行う国内トップレベルのハイボリュームセンターになりました。認知症疾患センターは地域に定着し新患外来は引き続き1～2ヶ月待ちの状態が続いています。アルツハイマー病に対する新規治療であるアミロイド抗体療法の導入症例数も着実に増えています。当院の強みである「障害に対する医療の提供」を今年も継続して参りたいと存じます。引き続き変わらぬご支援を頂ければ幸いです。

～仙台西多賀病院の理念～ 「良い医療を安全に、心をこめて」

北日本唯一の最新脊椎内視鏡手術UBE専門施設 —仙台西多賀病院 脊椎内視鏡センター—



脊椎内視鏡センター長
(整形外科医長)

山屋 誠司

当院では低侵襲脊椎手術の専門拠点として「脊椎内視鏡センター」を2018年に発足し、地域の脊椎診療の質向上と最新治療の提供に努めております。特に新しい脊椎内視鏡手術であるUBE (Unilateral Biportal Endoscopic Spine Surgery) は国内でも先行施設の一つとして2023年より導入し、現在、この手術を専門的に実施できる医療機関は北日本では当院のみです。UBEは従来の内視鏡MED (MicroEndoscopic Discectomy) と比較して皮膚切開が小さく5 mmと8 mmの2点のみであり、さらに灌流下で行うために熱による組織損傷も回避できます。また頸椎から腰椎まで幅広い病変に対応でき、早期回復と社会復帰が期待できます。脊椎内視鏡手術を専門とし、国内外で講演や技術指導を行い手術の安全・確実な普及を目指しております。頸椎から腰椎まで、狭窄症、椎間板ヘルニア、すべり症、再手術例など幅広い病態にも対応可能です。また8 mm内視鏡FESS (Full-Endoscopic Spine Surgery) で行う局所麻酔下手術は椎間板ヘルニアや椎間板性腰痛の改善に有効で、翌日退院も可能です。地域医療機関の先生方との連携を重視し、迅速な受診調整と術後情報の共有を徹底しております。脊椎疾患でお困りの症例がございましたらお気軽にご紹介ください。



当院の整形外科におけるリハビリテーションのご紹介

運動療法主任 藤谷 祐志

当院の整形外科では、主に脊椎疾患や変形性関節症の手術前後、脊椎圧迫骨折の入院患者様を対象としてリハビリテーション（以下、リハビリ）を行っています。

術後の円滑なリハビリへつなげるため、術前の評価・動作指導を実施しております。また、術後は安静による身体機能の低下を最小限にするため、早期に離床（起きる・歩くなど）をするリハビリを開始しております。人工関節の手術後は予定表に沿って進め、退院へ向けて安全な日常生活動作の獲得を含めたリハビリを実施しております。退院後の支援が必要な患者様には、患者様のニーズに応じて関係職種と連携を取り、安心して生活ができるよう支援をしております。リハビリに関するご相談は当科までお問い合わせください。



第79回国立病院総合医学会ベスト口演賞受賞しました！

理学療法士 長谷川 誉

この度は第79回国立病院総合医学会「理学療法 神経筋疾患」部門のベスト口演賞に選出いただき大変光栄に存じます。演題名は「筋強直性ジストロフィー患者におけるHAL医療用下肢タイプを用いた歩行運動処置の歩行能力変化に関する因子の検討」で、データの希少性や統計手法を高く評価していただきました。ご指導いただいた先生方をはじめ、ご協力を賜りました患者さま、スタッフの皆さまに心より御礼申し上げます。今後も当院におけるHAL治療水準向上に貢献すべく日々精進してまいります。



ベスト口演賞を受賞した理学療法士長谷川（右）とMSW相沢（左）

～仙台西多賀病院 連携の集い 開催しました～

地域医療連携係長 堀籠 ゆき

日頃より当院との医療連携にご尽力いただいている皆様に感謝の意と更なる連携を深める目的で10月10日（金）に「仙台西多賀病院連携の集い」を開催しました。ご多忙のところ病院関係者99名にご参加していただき感謝申し上げます。

第1部は病院紹介を行いました。武田院長から当院の紹介、その後「パーキンソン病の病態研究の進歩と最新の治療法」について講演を行い、川原外科系診療部長が「当院で行っている整形外科手術の紹介」について講演を行いました。第2部では意見交換会を行いました。日頃から電話で連携している他医療機関連携室職員の皆様に対面でご挨拶や情報交換をする事が出来ました。今後共、医療連携強化に努めて参りますので引き続きご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



『時を超えて武将隊がやってきた!!』

保育士 賀来 ゆかり

11月19日（水）『奥州・仙台おもてなし集団 伊達武将隊』の皆さんのが来院されました。

吹き抜けのホールを舞台に勇壮な音楽が流れ始めると甲冑姿の武将隊が登場。患者さんをはじめ病院職員からはその迫力に驚きと拍手が広がり、とても感動している様子が伝わってきました。

演舞後は、会場に行けなかった患者さんのもとに武将隊の皆さんがあし運んださいました。ベッド上で過ごす患者さんも普段より一段と輝いた笑顔を見る事ができました。

病院という静かな空間に突如現れた戦国時代の武将達。本当に貴重な素晴らしい時間をありがとうございました。



手指衛生をもっと楽しく！

院内ポスターコンテスト開催

感染管理認定看護師 櫻井 幸子

当院では2024年からWHOの手指衛生多角的戦略を取り入れ、今年で2年目となります。職員の関心を高めるため、今年も院内でポスターコンテストを開催しました！投票や院長賞、参加賞など、イベント感たっぷりで盛り上がり、スタッフも幹部も一緒に楽しみながら「5つのタイミング」での手指衛生を意識できるよう工夫しています。感染管理認定看護師もスタッフのやる気を引き出すべく、企画・運営を楽しみながら行っています。取り組み後は手指消毒の遵守率や使用回数も少しずつアップしています。まだまだインフルエンザなど感染症が流行する季節です。基本の感染対策を忘れず、今後も職員だけでなく患者の皆様にも丁寧に指導していきたいと思います。



当院における障害者虐待防止対策 その3 ～ハラスメント^(※)との関係性～

療育指導室長 佐々木京太（虐待防止担当者）

前回までに、当院の具体的な取り組みや「虐待の種」について触れましたが、今回は障害者虐待と患者からのハラスメントとの関係性について考えてみます。

これらは、一見すると対極にありそうですが、「表裏一体」と表現するのが良さそうです。患者からのハラスメントが職員のストレスにつながり、それが不適切な支援の要因となり、障害者虐待に発展すると考えられます。視点を変えると、職員による不適切な支援が患者によるハラスメントの要因になりうるとも考えられます。

したがって、障害者虐待防止においては、その行為のみに注目するのではなく、要因とその原因の一つである、患者からのハラスメントへの対応も重要になってきます。まさに、両輪のごとき取り組みと言えます。

当院では、こうした取り組みにより、患者さんと職員双方の「安心」を保障しようとしています。



^(※) 医療機関において、患者から職員に対するハラスメント行為を言う。患者－職員という立場の違いに基づいた、過度な要求や長時間の拘束、暴言などが該当する。ペイシェントハラスメントと称されることもある。

区分			月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
整形外科	新患 せぼね	新患	古泉 豊	川原 央	小城 繁明	山屋 誠司	国分 正一	
		藤田 涼	小城 繁明	藤田 涼				
	再来	国分 正一	国分 正一	川原 央	古泉 豊	国分 正一		
		山屋 誠司	両角 直樹					
	関節	新患			田村 則男	田村 則男 (第1・3・5週)		
		再来			大出 武彦 (第3水曜日休診)		田村 則男	
	せぼね・関節		須田 英明	須田 英明	須田 英明	須田 英明		
外来担当表	側弯症						両角 直樹	
	新患	馬場 徹	高橋 俊明	武田 篤	吉岡 勝	金原 稔子		
			田中 洋康		大泉 英樹	長谷川隆文		
	再来	武田 篤	吉岡 勝	武田 篤	大泉 英樹	田中 洋康		
			菊池 昭夫	高橋 俊明	金原 稔子	長谷川隆文		
				馬場 徹				
	循環器科			勝田 祐子				
	リウマチ内科			星 陽介				
	小児科		小林 康子 (成長発達)	小林 康子	午前 小林 康子 (乳児健診・予防注射) 午後 小林 康子	小林 康子		
	脳神経外科 ※2		永松 謙一				永松 謙一	
	泌尿器科				東北大学医師 (第2・4週)	武弓 俊一		
	遺伝カウンセリング ※3			高橋 俊明				
	もの忘れ外来 ※4	武田 篤	大泉 英樹	馬場 徹	佐久間博明	金原 稔子		
			鈴木 匠子		長谷川隆文			
	禁煙外来		当面、診療休止 ※詳細はホームページをご参照ください。					
	歯科 ※5			福重 拓也			佐藤 敦	

令和7年10月1日 現在 ※1 脊柱側弯症の新患患者様のご紹介は、側弯症外来日（金曜）にお願い致します。

※2 脳神経外科は主にパーキンソン病に関連した診療を行っています。

※3 遺伝子カウンセリング外来は神経筋疾患を中心に行っています。

※4 もの忘れ外来は診療情報提供書が必須で完全予約制です。

※5 歯科外来は主に入院患者の診療を行っています。



独立行政法人国立病院機構 仙台西多賀病院

〒982-8555

宮城県仙台市太白区鉤取本町2丁目11-11

◎電話：022-245-2111(代表)

◎FAX：022-243-2530

◎URL：<http://www.nishitaga-hosp.jp/>

地域医療連携室(直通)

◎電話：022-245-1810

◎FAX：022-245-1811

発行／仙台西多賀病院地域医療連携室

発行責任者／地域医療連携室長 高橋 俊明

※仙台地下鉄を利用して来院される場合は八木山動物公園駅または長町南駅をご利用ください。

※東北道を利用して来院される場合は仙台南ICをご利用下さい。
(東北道～山田ICまた、山田IC～東北道はご利用できません。)

